

2022 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [大谷中学校・高等学校] 担当教諭名 [伊藤良太・寺谷彰浩・向明栄茂・寺平真美] (中学1年-高校1年 30名)

相手国・地域 [インドネシア]

海外学校名 [SMP Labschool Cibubur] 担当教諭名 [Septiawan Heri]

■実施教科・時間数について教えてください。

アートマイルに関連した 実施教科・時間数	教科	単元名	時間数
	基礎学習	環境問題・教育問題・社会問題	10
	放課後	環境問題・教育問題・社会問題	20
	休日	環境問題・教育問題・社会問題	20

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	世界の同世代の仲間たちとSDGsへの理解を深め、具体的なアクションを起こす
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	世界には様々な問題があって、それに苦しんでいる人がいる。私たちは同じ地球の仲間として、一つずつ解決していかなければならない。すべての問題を解決するにはとてつもなく時間がかかるだろう。それでも絶対に諦めない。見放さない。忘れない。みんなでその解決策を時間がかかっても見つけよう。
 	

■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
SDGsのゴールについて、相手校の生徒と未熟ながらも共有することができた。これから自分たちが解決していくべき課題として実感することができた。英語でプレゼンテーションを行うことができたことは、生徒たちにとって大きな成果であった。	生徒の英語表現力が未熟なため、対話や討論を十分に深めることはできなかった。英語教員のサポートがなくても、相互理解ができる程度までの英語力が必要であろう。学年・クラス・課外活動の異なる生徒の時間を調整して、考え方や表現をまとめることは困難であった。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
環境問題への関心はあまりなかった生徒たちが少しずつ関心を抱くようになった。壁画の制作にあたりZoomでの意見交換や交流を深めることができた。	当初はプレゼンを英語でさせることに不安を抱いていたが、発表や意見交換の回数を重ねることによって、生徒の環境問題や社会問題への理解が高まったことに手ごたえを感じた。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
調べ学習 テーマ学習	9月 前半	SDGsに関わる調べ学習	学年やクラスの異なる生徒たちが主体的に学ぶ姿勢を出すことに苦労していたようである。	総合 課外活動
共有 相手と意見交換	9月 後半	オンラインでの討論・対話を通じ、環境・食糧問題・貧困問題への理解を深化させる。	生徒一人一人のメッセージを伝えることで諸問題への関心が高まっていった。意見交換を通じて相手国の状態への興味・関心を共有できた。	総合 課外活動
融合 メッセージ作成	10月	インドネシアの学校との討論・対話を経て感じ取ったことを具体化する。	メッセージ作成と画像への着想を具体的に考える。互いにプレゼンした内容を今度は絵画という形に昇華させるプロセスを楽しんでいたようである。	総合 課外活動
創造 壁画制作	11月 12月	我々の思いを絵画にするための工夫や、インドネシアの学生からのアイデアを如何に表現するか考える。	生徒同士で協力をし合い、壁画の完成に向けて努力することにより、メンバー間の結びつきもより強固なものになった。	総合 課外活動
評価 振り返り 自己評価	3月	全体的なプロセスを振り返り、生徒と教師で話し合いをした。	活動内容に手ごたえを感じたので、今後の英語学習により一層高い動機付けとなった。また社会問題に対する意識づけにもなったようである。	総合 課外活動

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価（5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった）

学習目標・つきたい力	評価	教師がそう感じた場面と理由
異文化・自文化を理解する力	3	日本になじみの薄いインドネシアについてさらに理解を深めるために英語だけではなく、インドネシア社会や学校についてさらに理解し、日本紹介についてもっと工夫が必要だと感じた。
主体的に考え行動する力	4	普段の英語の授業では受動的な学習スタイルの時もあるが、今回は自分たちで調べたことを英語で伝えるということまでできたので、そのプロセスを経ってくれたことに大きな意義を感じた。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	3	お互いのプレゼンを聞いた後で、質疑応答を行った。相手の発表内容をより深化させるやりとりをすることで、即興的な意見交換をすることができた。
多様な他者と対話・協働する力 (海外の相手と対話・協働)	3	SDGsの各テーマに関して、文化の違いがあるため、異なったアプローチからの発表が聞けたので、生徒たちにとっては参考になる部分が多かったと思われる。
想いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	4	最初はプレゼンという形で口頭発表したものを、絵画という別の表現方法に変えるのに苦労していたが、一たび絵の原案が固まると、メンバー間で協力し合い、最後まで完成させることができた。